

令和3年度公益事業補助金認定事業 事業評価 【流山高齢者安心ネット】

No	評価項目		委員コメント	平均評価点 (3点満点中)
1	計画に対する評価	事業の達成度 当初計画のとおり事業を実施できていたか	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、実行できなかった計画もあるが、3月のシンポジウムが種々の障害にも関わらず実行されたことを高く評価する。一方で当初予定されていたエンディングノートが実行できなかったのは残念である。計画の実行よりも、むしろ当初の計画設定に少し無理があったのではないかと。或いは楽観的過ぎたということはないか。実行力よりも計画力に幾ばくかの不安を覚えたので、そのあたりの検証をお願いしたい。 ・長引くコロナ禍の中、柱となるシンポジウムの開催の可否に振り回された1年であったことと思う。結局は配信対応など初めての試みに挑戦しようだったが、開催に当たり備品の調達・wi-fi環境の確認など、事前に緻密な準備が当然必要だったと思われる。 ・一大イベントである3月の講演会は綿密な企画準備が必要であったと思われる。コロナ禍の悪条件はあったものの、改善の余地があるのではないかと。 ・「脳の健康度」は3月中に100名達成の計画であったが、コロナ禍の中で、なかなか大変であったと思う。「成年後見」に関しては、コロナ禍により、令和4年3月まで実施できなかったのは不運であった。 ・コロナが収束するかどうかが不明瞭であった時期の計画として、ずさんではないか。当初の参加者目標数が、ファイブコグで100名と講演会で300名の計400名を予定していたものが、実際はその4分の1にも到達していない。コロナ収束が不明瞭であった時の計画であるなら、中止にしても代替でカバー出来る計画を最初からたてるべきものである。 ・コロナ禍のせいか、計画が大幅に変更になったことが残念だった。提案調整会議は当初の目的に賛同し、この事業を支援することにしたため、少し驚いた。認知症がどんどん増える街をなんとかしたいという団体の街を思う気持ちは良く伝わってきた。しかし、観点は素晴らしいが、市民団体だからこそ市民目線で訴える力がもう少し欲しかったと思う。 	1.63
2		事業収支の計画性 見込通りの資金繰りとなっていたか	<ul style="list-style-type: none"> ・2月段階の収支表を見た限り心配したが、3月のシンポジウム開催でほぼ計画通り達成されたかと評価する。事業の現実的で堅実な計画設定さえできれば、収支計画の実現に不安はないと思う。 ・変更したら、したとして、具体的な事業収支の提出が必要なのではないかと思う。 ・「脳の健康度」では、経費の中に、計画で示されていた「エンディングノート」の記載がなかった点が気になった。「成年後見」では、3月の講演会の経費状況を確認できなかったことが残念だった。 ・コロナ収束が不明瞭であった時の計画であるなら、中止にしても代替でカバー出来る計画を最初からたてるべきであり、改善が必要である。 ・当初計画が大幅に変更になったため、事業収支も変更にならざるを得ず、苦勞の跡が見える。3年目も申請するようだが、補助金の終了が終わった段階を想定し、「この計画が持続できるのか」を考え、資金繰りにもさらなる検討を要する。 	1.88
3	自立性に対する評価	自立努力 収益努力と仲間づくりができていたか	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の自立への道筋にやや不安を覚える。シンポジウムで協力を得た他の団体との連携を深め、仲間作りを進めることを期待する。 ・市内の7つの高齢者団体が一同に会したパネルディスカッションは、聞き応えがあったものと想像される。これからも繋がりが持続されることを期待する。 ・複数団体をまとめあげ、横ぐしを刺すイベントを立ち上げた努力は、高く評価されるべきである。 ・「脳の健康度」では、今後も努力してほしい。「成年後見」については、収益は難しいと思われる。 ・仲間作りという点で、3月5日のシンポジウムにおいて、関連団体が一堂に会する場を創れたことは大きな意義があったと思われる。ただ、イベントのみで終わることなく、今後の日々の細やかな場面での連携をどのように創っていくのか、そこに収益事業として何かを成り立たせていけるのか、工夫が必要であると思う。 ・ハイブリット型シンポジウムにて、市内の高齢者支援団体と一緒につながり、パネルディスカッションをしたことが、これからの活動においての仲間づくりにつながったと思う。3年後の自立に向けては、もう少し努力が望まれる。 	2.00

4	波及効果に対する評価	行政との連携度合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成年後見制度について、行政サイドの組織構築が進んだ中で、今度どう行政と連携をするのかを注視したい。 ・ 「認知症予防」や「成年後見制度」については行政も重要なテーマと捉えていることと思う。事業を進めるに当たっての十分な連携が、更に効果のあるものにしていくものと期待する。 ・ コロナ禍でコミュニケーションが十分に取れない状況も考慮しても、行政との円滑な意思疎通の点で、改善が望まれる。 ・ 「脳の健康度」では、行政と協力しながら活動を進めてほしい。「成年後見」では、成年後見地域連携ネットワークの一員として協力してほしい。 ・ 高齢者の安心を提供するための事業としては、より綿密な保健師や地域包括支援センター等との連携が必要ではないかと思われる。また、担当課（高齢者支援課）の意見シートには、事前に協議が欲しい、DVDについては内容を視聴させていただきたい等のコメントがあるため、今後、より綿密で活動内容の理解を得られるような関係づくりが必要であると思われる。 ・ 高齢社会の問題は、行政も大きな課題としてうけとめ、十分でないかもしれないが、力を入れているようである。行政からも、市民団体の取り組みには期待があると思う。同じ目的をもっているのだから、行政と綿密な連携をはかり、お互いが相乗効果を上げられるように連携の仕方を工夫するよう期待する。 	1.75
5	波及効果に対する評価	課題に対する地域への波及効果・貢献度	<ul style="list-style-type: none"> ・ シンポジウムの開催ができたことで、他の協力団体との今後の連携の深まりに、大いに期待したい。 ・ 流山市は若い方の多い街だが、高齢者になっても安心して住みやすいといわれる街をめざし、頑張っておりと思う。 ・ 「脳の健康度」について、安心感を与えるだけでは普及は難しいため、ファイブコグの有効性を理解してもらえないか今後の課題である。「成年後見」では、やはり行政と協力しながら活動を広めてほしい。 ・ 対象人数は大幅に少ないという結果とはなったが、高齢者安心ネットの活動によって、流山に暮らす高齢者で「ファイブコグ」の検査を受ける機会を得た者（そして、安心した者）や、成年後見制度について知る機会を得た者がいることは、十分に評価できるものと考えられる。 ・ 介護予防策の観点も、安心できる街づくりに必要不可欠な課題である。真に流山高齢者安心ネットが、流山の高齢者問題を引き受ける団体として効果をあげ、知名度があげられるよう期待している。そうなることにより、市民活動団体公益事業で育った団体として誇りに思えるものと思う。 	2.13
	事業全体に対する総合評価		<ul style="list-style-type: none"> ・ まん延防止制度の中、年度末に何とかシンポジウムの開催ができたことを高く評価したい。但し、1年を通じての計画設定が、少し楽観的だったのではとの印象を否めない。シンポジウムで協力した団体との連携に、今後大いに期待するが、ファイブ・コグ等の対象者である高齢者の世代だけでなく、その子どもたちの世代の共感と活動参加が今後カギになるのではないと思う。実際、団体の運営活動者自体が高齢に近い人々と思われるので、今後は少しずつでも、より若い世代の人々が運営に関わってくることが、長期的な視点で必要になってくると思う。その点、裏返して言えば、高齢になられても熱意をもって活動している運営者の方々には、敬意を覚える。 ・ 当初の事業計画と予算から大幅に変更があったようだが、その変更理由が明確にされないまま実績報告書の提出に至ったように感じる。「私達が取り組む課題は一貫して「認知症対策」と「成年後見制度」である」と言い切っていることは頼もしいが、事務方の進め方については、もっときっちりしてほしいと思う。 ・ コロナ禍においても、高い柔軟性でイベントをやりきる姿勢、新しいことにチャレンジする姿勢は、非常に高く評価できる。本制度を利用し、自立した活動に転換した良い事例になるよう頑張ってもらいたい。 ・ 先ず、コロナ禍での活動に真摯に取り組まれ、新たなイベント（講演会）にも果敢に挑んだことに、敬意を表す。双方の問題は、我々を取り巻く高齢化社会で切実なテーマでもあり、関心度も高く、活動の経過や結果を注目していた。ファイブコグについて、集客や検査実施に一定の成果はあったものの、検査後の被験者のフォロー（アフターケア）が、やや心細い感がある。特に、検査スコアの低かった方々には不安が残るケースもありうる。ただ一方で、検査に一步を踏み出せなかった人々に、きっかけを与えた成果は評価したい。加えて、成年後見制度に関する講演会の試みは、大いに評価したい。しかし、コロナ禍で十分な準備が叶わなかったことも想像出来るが、企画・運営（ハイブリッド開催）には、事前チェックや周到な準備が必要であったように思う。いずれにしても、このイベントを通して貴重な反省点や改善策も見えてきたものと思われ、今後の活動に役立てていただけることを期待している。今回の活動報告に関して、結果として辛口の評価となったが、今後の活動の充実と地域への波及効果を期待している。 ・ コロナ禍の中での事業計画であったため、計画通りの事業が出来なかったものと思われる。その中でも、努力して事業を進めていることは評価できる。講演会が11月から1月、そして3月となり、実施がかなりずれ込んだ。3月もオミクロン株で実施が危ぶまれる中、実施できたことは良かった。今後は成年後見推進センターと協力し、「成年後見制度」のPRに努めてほしい。 ・ 辛口になるが、2つの事業「脳の健康度チェック事業」と「成年後見制度の市民啓発事業」がバラバラで接点が見いだせず、統合されていない。来年度の事業計画では、事業全体に対する達成目標と目的を明確にし、それを事業名とすること、その最終目標に向かって必要である企画を入れ込む、という手順で事業計画を練る必要があると思われる。やりたい企画（たとえば、ファイブコグ）から事業を発想するのではなく、到達したいこと（たとえば、高齢者の不安を取り除きたい）から事業計画を練り、事業名を決める（たとえば、事業名：高齢者の不安を取り除きこころの安心を育み合うまちづくり事業）というふうと考えていくとよい。事業計画の作成、事業実施において、第三者から助言を得る機会をふんだんに盛り込むことが重要である。 ・ 流山高齢者安心ネットの取り組みについて、このコロナ禍の中、大変なご苦労があったこととお察しする。手段においても、講演会はハイブリッド型に変更するなど、なんとか事業を達成させようと思う団体の努力は、評価している。その中で、今後の事業を実施するにあたり、少し気付けてほしいことを申し上げたい。 【1.計画性】 この補助金を申請するときは、すでにコロナが騒がれていた時代であったため、早くからそのこと想定しておくべきだったのではないかと。 【2.実施方法】 ハイブリッド型シンポジウムに切り替え、数カ所のサテライトで実施したことは、素晴らしいと思う。しかし、Wi-Fi環境がそろっているかなどは事前に調べておくと、運営がもう少し楽にできたのではないかと。事業の途中でお客様が帰られることはマイナス評価になる。 【3.事務局体制等】 主催者側の頑張りはこちらにも響いたが、参加者の感想は如何だったのか。アンケートは用意されていたのか。参加者の意見を知らなかった。 ・ ファイブコグが良い方法だと思うが、体験された方の認知症に対する不安が大きいため、そのケアをきちんとしなければ、かえって当事者の気持ちを揺らすことになると思った。 ・ 成年後見制度の体験DVDができていたならば、報告会で少し見せて欲しかった。 ・ 以上、たくさんのご意見を申し上げたが、それは、この事業に大きな期待を寄せているためであり、今後の参考になればという応援メッセージと思っていただければ幸いです。今後のご活躍を期待している。 	1.94